

東北海区沿岸水温予報(2008年)

海域	経過 (12~3月)	現況(4月上旬~ 4月中旬)	見通し (4~6月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	定線観測結果(太平洋) 3月 津軽暖流の各層水温は、50m層でやや低く、0、100m層では平年並み、津軽暖流の東方への張り出し位置はやや東偏していました。 定地水温 12月:平年並 1月:平年並 2月:やや低い~平年並 3月:やや低い~平年並	定地水温 4月:やや低い	津軽暖流域の水温は平年並で推移する。また、津軽暖流の東方への張り出し位置は平年並。	3月の太平洋定線観測では、津軽暖流の東方への張り出し位置はやや東偏している。 4月の日本海定線観測では、各層水温は平年並~やや高い、対馬暖流の勢力は平年並~やや強勢である。 親潮系冷水の勢力にやや弱まる兆しが見られるが、依然、勢力は強い。 定地水温は平年並~やや低いで推移している。	
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	12月 表面:県北部沖合10海里でやや低め、県北部沖合40海里および県中部沖合40~50海里から県南部沖合20~50海里にかけてやや高めのほかは平年並。 100深:県北部沖合0~20海里から県中部沖合0~10海里にかけて平年並のほかは、やや高め~高め。 1月 表面:県北部沖合20~50海里、県中部沖合20海里および50海里で平年並~やや高め、県中部沖合10海里から県南部沖合40~50海里にかけてやや低めのほかは平年並。 100m:県北部沖合20~50海里でやや高め、県中部沖合10~40海里から県南部沖合10~50海里にかけて平年並~やや低めのほかは平年並。 2月 表面:県中部沖合30~40海里から県南部沖合40~50海里にかけての海域を除くほぼ全域で平年並~低め、県中部沖合50海里および県南部沖合50海里で高めのほかは平年並。 100m:県中部沖合50海里から県南部沖合40~50海里にかけての海域を除くほぼ全域で平年並~低め、県中部沖合50海里および県南部沖合50海里でやや高めのほかは平年並。 3月 表面:県中部沖合40~50海里、県南部沖合20海里および50海里でやや高めのほかは、ほぼ全域で平年並~低め。 100m:県北部沖合30~40海里から県中部沖合30~50海里にかけて、県中部沖合30海里から県南部沖合30~40海里にかけておよび県南部沿岸0~10海里でやや低めのほかは概ね平年並。	表面:県中部から県南部の沖合10海里でやや低め。県中部沖合20海里から県中部沖合及び県南部沖合の40海里でやや高め~極めて高め。 100m:県中部沖合5~20海里と県中部沖合10~30海里、県南部沿岸0~20海里で平年並~やや低め。県中部沖合30~50海里から県中部沖合40海里、県南部沖合40~50海里にかけて平年並~高め。	県北部は平年並~やや低め、県中部~県南部は平年並~やや高めに推移する。	県中部~県南部沖側では、北上暖水により暖水塊が形成され、平年並~高めに推移するものと考えられる。また、暖水塊により分断された冷水域が県中部~県南部の沿岸に残り、平年並~やや低めに推移するものと考えられる。	4月上旬、本県沿岸域の広範囲に渡りミズクラゲが大量発生。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	11月末には、表面水温は14~17台で平年より概ね1~3高めであった。100m深水温については、13~17台で平年より概ね1~4高めであったが、特に沖合の143°E付近で高くなっていた。 1月には、表面水温は9~14台で平年より概ね1~3高めであった。100m深水温については、9~13台で平年より概ね1~2高めであったが、金華山の沖合142°20'E付近で平年と同程度の水温であった。 2月には、表面水温は、7~11台で、平年より概ね1~2高めであった。100m深水温については、8~11台で平年より概ね1~2高めであった。表面水温・100m深水温とも、岸寄りの海域では、平年と同程度の水温であった。 3月には、表面水温は、3~11台であったが、142°E~142°30'E付近の海域では3~5で、平年より1~3低めであった。100m深水温については4~8台であった。この内142°E~143°E付近の海域では5~7で概ね平年より1~2低めであったが、これ以外の海域では概ね平年並であった。	4月には、表面水温は、5~10台であった。沖合域では平年より概ね1~2高めであったが、岸寄りの海域並びに巨理沖合(38°N)143°E付近では平年より低めであった。 100m深水温は3~7台であった。雄勝沖合(38°30'N)では、平年と同程度の水温であったが、巨理沖合では平年より低めであった。	100m深水温について、雄勝沖合(38°30'N)と巨理沖合(38°N)の142~142°30'E付近の海域では、5月に平年より低めだが、6月には平年並で推移する。 雄勝沖合143°E付近の海域では、5~6月に平年より低めで推移する。 このほかの海域では、5~6月に、平年並またはやや高めで推移する。	「宮城県沿岸海域の海況予測モデル」を用いて、100m深水温による予測を実施した。(2008年4月について、類似年は1994年、1998年であった)	3月下旬~4月上旬に、定地水温観測(歌津・江島)で、5~6と平年より低い傾向が認められた。 [親潮系水が岸寄りを南下した影響と考えられる]
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	12月から1月上旬にかけて本県中南部海域では黒潮系暖水が広く分布するもその勢力は弱く、水温は平年並で経過した。1月中旬以降3月中下旬にかけて本県南部海域20海里付近を中心に中部海域中まで黒潮系暖水の波及が顕著となり、水温は平年より高め基調で推移した。	県中部海域は広く親潮系冷水に覆われ、平年よりやや低め~極めて低めの水温がみられた。県南部海域では距岸5海里沖付近までの冷水の波及がみられる一方、20海里付近を中心に南から黒潮由来とみられる暖水の波及傾向がみられた。	親潮系冷水の波及は期間をとおして継続するが、その勢力は期間後半に向かい、現況より衰えてゆき、水温は平年並付近で推移する。南部海域では南からの黒潮系暖水の一時的な波及がみられると予測される。	福島県周辺海域における統計的漁況予測手法によると現況の親潮系冷水の波及は期間後半に向かい、現況より衰えてゆくことと予測された。現況でみられる南からの暖水波及の勢力は弱く、一時的なもののみみられる。	4月上旬、本県南部海域4~12海里沖の中層トロール調査にてクオネが少々採集された。

<p>常磐南部～鹿島灘(茨城県沿岸; 茨城水試発表)</p>	<p>12月は南下流が卓越し、北方からの混合水が流入した。水温は北部海域で概ね平年並、南部海域は概ね低めで推移した。 1月上旬にはごく灘寄り(南下流)であったが、その沖は黒潮系暖水が強く波及したため北上流となり、水温も高めの基調へと変化した。 2月～3月には1月上旬の暖水波及が徐々に全海域に広がり、水温は平年並～極めて高いとなった。</p>	<p>本県海域は北方からの親潮系冷水の影響を受け、表層から下層まで一様に低め基調となっている。特に北部の沿岸寄りには北方からの親潮系冷水が差込んでいるため(最大で-5)。 黒潮は犬吠埼の東南東を流去している。また、犬吠埼沖では黒潮系暖水との間で潮目を形成している。</p>	<p>当初は親潮系冷水の南下により現在の低温傾向が持続するが、徐々に暖水の波及が強まり、低温傾向は解消すると予測される。</p>	<p>年による変動はあるものの統計的に4月～6月にかけて親潮第1分枝は後退する傾向があることが知られている。このことから新たな親潮系冷水の波及は弱まると推測されるが、親潮から分離した冷水は常磐海域に残っており、当面は本県海域に南下すると予測される。 本県沖合(東経146°E付近)にある暖水塊は徐々に西進しており(海面高度による流向流速画像による)、このまま西進すれば徐々に暖水波及が強まると予測される(FRA-JCOPEによる予測と同じ)。</p>	<p>4月中旬に大津沿岸(本県北部)でクリオネが1個体採取された。</p>
--------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い(7.5%)	+1.6 ~ +2.3	+2.5 ~ +3.9	4.0 ~ +5.9	+1.6 ~ +2.3	+2.5 ~ +3.9	+2.5 ~ +3.9
やや高い(20%)	+0.7 ~ +1.5	+1.0 ~ +2.4	1.5 ~ +3.9	+0.7 ~ +1.5	+1.0 ~ +2.4	+1.0 ~ +2.4
平年並(40%)	+0.6 ~ -0.6	+0.9 ~ -0.9	1.4 ~ -1.4	+0.6 ~ -0.6	+0.9 ~ -0.9	+0.9 ~ -0.9
やや低い(20%)	-0.7 ~ -1.5	-1.0 ~ -2.4	1.5 ~ -3.9	-0.7 ~ -1.5	-1.0 ~ -2.4	-1.0 ~ -2.4
低い(7.5%)	-1.6 ~ -2.3	-2.5 ~ -3.9	4.0 ~ -5.9	-1.6 ~ -2.3	-2.5 ~ -3.9	-2.5 ~ -3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~